

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

38. ワレモコウ（バラ科ワレモコウ属）

Sanguisorba officinalis L.

2015年9月

日当たりのよい土手や草原などに生育する無毛の多年草です。根茎は肥厚し深くまで伸び、乾燥するところにも生育できるようになっています。葉は根生し茎を出し、高さ30～100 cm、上部で枝分かれを繰り返します。小葉は5～11個で長さ2～5 cm、幅1～2.5 cm、小葉柄は6～30 mmで、基部は心形～円形で粗い鋸歯があります。8～10月に枝先に直立した楕円形で長さ1～2 cmの穂状花序をつけ、花は暗紅色で上部から下部に咲きます。花弁はなく、がく裂片は4個で雄ずいは4本、糸状の花糸は暗紅色でがく裂片とほぼ同長です。分布は北海道、本州、四国、九州、樺太、朝鮮、中国、シベリア、ヨーロッパで、分布域が広いので葉の形など地域による変化があるようです。姫路市においてもため池などの堤体に広く見られます。似た種類に花序が長いナガボノワレモコウ (*S. tenuifolia* Fisch. ex Link) があります。本種は生育数が少なく、兵庫県内では中南部に点在する程度の絶滅危惧種です。ワレモコウが草原生に対し、ナガボノワレモコウは湿地生で、花色も白色や紅紫色、また、赤みを帯びた花が同一箇所に混生します。



ワレモコウ



ワレモコウ花拡大



ナガボノワレモコウ（白花）



ナガボノワレモコウ（赤花）